



*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 48 No. 4
August 2023**

毒性学ニュース

Toxicology News

一般社団法人日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース Contents

日本毒性学会からのお知らせ

五十年の重み、そしてこれから	49
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第4報）	52
第51回日本毒性学会学術年会のご案内（第1報）	53
2024年度日本毒性学会 学会賞 候補者推薦要領	55
2024年度日本毒性学会 特別賞 候補者推薦要領	56
2024年度日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞）候補者推薦要領	57
2024年度日本毒性学会 学会貢献賞 候補者推薦要領	58
2024年度日本毒性学会 奨励賞 候補者推薦要領	59
第50回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	60
Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告①	
—Continuing Education Coursesに参加して—	61
「Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告」②	
—国際的なIVIVEモデル研究について学ぶ—	62

その他のお知らせ

フォーラム 2023 衛生薬学：環境トキシコロジー	63
一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について	

五十年の重み, そしてこれから

千葉大学名誉教授

佐藤 哲男

日本毒性学会 (JSOT) は今年創立 50 周年を迎えた。誠に嬉しい限りである。6 月 19 日 - 21 日には北嶋年会長のもとで 50 周年にふさわしい素晴らしい年會が開催された。今年の年會はまさに北嶋年会長の毒性学に関する独特の考え方が基盤になっていた。それは従来の概念を超越した幅広い生命科学の中でのパラダイムシフトである。

また、務台理事長、北嶋年会長が中心となって、記念企画として、第 1 回 (昭和 50 年) - 第 31 回 (平成 16 年) までの学術年會要旨集を PDF 化して第 50 回日本毒性学会学術年會ホームページに公開した。これは本学会の歴史を語るものであり会員の一人として心から感謝したい。

我が国における初の毒性研究者の学術団体として、1973 年 11 月に「毒性研究会」が設立された。会員の多くは獣医学系大学および製薬企業の研究者であった。その後、1975 年に医学、薬学の研究者が中心となり「毒作用研究会」が設立された。翌年には、「毒性研究会」が「毒作用研究会」に合体し、1981 年 6 月に「毒性研究会」は発展的に解散し「日本毒科学会」が設立された。今年「毒性研究会」の設立から数えて 50 周年に当たる。50 年の重みは一朝一夕で出来上がるものではない。学会創立当初の先人の献身的なご努力とそれを継いだ会員各位の活動の積み重ねが 50 年にわたる歴史を構築してくれた。

今日の科学は世界的に目覚ましい進歩を遂げている。トキシコロジーが学問として認知されたのは米国 Society of Toxicology (SOT) の創立が契機となっている。その頃のトキシコロジーは、薬理学、病理学、生化学などの研究者が集まったいわば「ヘテロ集団」だった。その最初の専門家集団が、1961 年 3 月 4 日

に 9 名の発起人により設立された SOT である。1962 年 4 月 12 日に Atlantic City で開催された第 1 回年會の時には会員はわずかに 185 人だった。それが約 60 年を経た現在、7800 名余の会員にまで成長し世界で最大のトキシコロジー学会となった。JSOT は SOT に次いで多くの会員を擁している。

JSOT の初代理事も SOT と同様に薬理学、病理学、獣医学、農学、薬学、製薬企業などの混成部隊だった。科学の進歩は国際化なしには考えられない。毒性学は毎日の生活や環境の変化がもたらす健康への影響など裾野が広い学問である。そこには人類全てに共通の課題があり国境がない。JSOT としては 50 年の歴史の上に立って国際協調の下に次の創立 100 年に向かって突き進むこととなる。本稿では今後 JSOT を国際的に飛躍させるために必要な 3 点について私見を述べたい。

1. 女性の進出

将来の JSOT に課せられた多くの課題の一つとして、学問の世界における女性の進出である。今後は今まで以上に JSOT の運営に女性会員の積極的な参加が求められる。一般に、米国とわが国では女性の社会進出の歴史が異なるため、単純に数字で比較することはできないが、SOT の場合、現在の Council は 14 人中 7 名が女性で、現 President、次期 President 候補は女性である。日本国内の他学会でも女性理事の定員化を検討しており、中には女性理事の割合を会員の女性の割合と同等にすることとした学会もある。最近では多くの学会で国際的に活躍している女性会員が増えている。今後は女性会員の中で一定数

はJSOTの理事会や委員会メンバーとして学会の運営に参画して欲しい。そして今後は女性の理事長も例外ではない。

2. 若手会員の国際的活躍

若手の定義は難しいが、私の中ではJSOTが創立されて第4, 5世代、つまり30代, 40代の会員を考えている。第3世代の50代の会員はむしろ指導的立場になって欲しい。学会活動を発展させるためには若手会員の積極的な国際的活動が必須である。職場環境が許すならば国際学会や国際会議に積極的に参加し業績を発表し、知識を集積し、国際的な友情を深めてほしい。そうはいつても、最初から国際学会で素晴らしい発表ができるはずがない。そこには言葉の壁もあり徐々に慣れることが必要である。次に述べる内容は私が先人の教えを受けて若い頃に国際進出を志して試行錯誤で進んだ経験である。

第1段階：ポスター発表

最初はポスター発表である。国際学会での発表は誰でも緊張するが、ポスター発表の質疑応答は質問者と一対一で時間制限がないので考えながら回答ができる。それにより多くの海外の参加者と接して英語での質疑応答に慣れる。

第2段階：口頭発表

ポスター発表である程度自信がついたら、次は国際学会における口頭発表である。発表は自分のペースでできるが、発表後に聴衆からの質問を理解し回答することは大きなストレスである。しかし、それも繰り返し経験することにより慣れるものである。

第3段階：シンポジウム、ワークショップ

研究者にとってシンポジウム、ワークショップなどの演者に選ばれることは大きな名誉である。また、同じ領域の研究者とシンポジウム、ワークショップを企画し提案することは、本人の国際的進出に大きな自信となる。

第4段階：特別講演

第1-3段階を経て国際化に慣れることは、若手研究者にとって必要なステップである。私は2004年にフィンランドの第2の都市であるTampereで開催された第10回IUTOX-国際会議(IUTOX-X)に特別講演者の一人として招かれた。こ

れは私の研究者生涯において最大の榮譽であった。

以上述べた内容は私がこれまで経験したことに基づいて考えた提案である。若手の会員が今後国際的に進出する際の一助になれば幸いである。

一方、聴衆として国際学会に参加し他人の口頭発表を聞く場合、できるだけ質問する様に努力する。関心のある演題については、あらかじめ講演内容を十分にチェックし想定質問を考える。この場合細かいことであるが自分の座席も問題である。後方や会場の中心に座ると、多くの聴衆の頭が見えて手をあげることを躊躇するので、質問したいときはできるだけ前方に座るとよい。これは私が若い頃尊敬した高名な先生から教えて頂いたことである。ぜひ試して欲しい。欧米の研究者は、ポスター発表や口頭発表をして聴衆から質問がないと、自分の発表は価値のないものとする。従って、質問すると彼らは待っていましたとばかりに説明してくれる。質問することは学問の進展とともに国際化の一歩となる。

3. 国際感覚を会得する秘訣

今後JSOT会員が国際会議に出席する機会が増えると思う。そんな時、国際会議では自虐的な英語コンプレックスは捨てて、大いに意見を述べる必要だ。発言のない人は会議の中で無視される。日本人は完璧主義の人が多いため流暢な英語にこだわって発言を控える人が多いが、私の経験では、イタリア、フランス、スペインなどの委員は完全なイタリア語訛り、フランス語訛り、スペイン語訛りの英語で堂々と発言している。それで会議中の討論に何の違和感もない。主張したい単語を強く繰り返し述べることによりその内容は相手に伝わる。

国際会議での日本人の発言が少ないことについてグローバルに有名なジョークを一つ。

『国際会議での腕のいい司会者とは、「いかにしてインド人を黙らせて日本人にうまくしゃべらせる事が出来るか」だ。インド人は押しが強く舌の英語でしゃべりまくる。反対に、日本人は指名されないといつまでも発言しない。いかにして日本人に発言させるかが司会者の腕だ。』

おわりに

本稿で述べた若手の国際進出に関する提言は、私が若い頃に試行錯誤を繰り返して得た経験である。JSOTはSOTとともに世界のトキシコロジーの発展への大きな責任がある。私は1974年にSOTに入会して以来、2000年頃までの間に、学会の機関紙、Toxicological SciencesのAssociate Editorとして編集委員会に参画してきたが、そこで学んだ内容の一つはスムーズな世代交代である。これは理事会、委員会にとって重要なプロジェクトを継続的に発展するのに不可欠である。この目的で、SOTでは理事会、委員会などでは次世代の後継者を育成する目的で若手の任期が重なるように選出し、任期中に将来の具体的な施策を検討する。それにより、学会としての重要課題が継続的に実施される。JSOTとしても重要課題は次世代への効率的な継続性を切に望むものである。

さらに、これまでJSOTに欠けていた課題として女性会員の学会運営への参画がある。これに関しては他学会でも具体的な施策を検討し、選出方法など詳細についてすでに決定しているところもある。JSOTとしても早急に結論を出して欲しい。

本稿では、主として女性会員、若手研究者の皆様にお願ひしたい私見をまとめた。最後に、50有余年国内、国外でお世話になった先人の教えに感謝したい。また、JSOTが今後世界のトキシコロジー研究に大きく寄与することを祈念して筆を擱く。

なお、紙面の都合で詳細は省略したので、もし必要ならば下記の参考資料をご参照頂ければ幸いである。

参考資料（日本毒性学会ホームページ、特別寄稿）

- 佐藤哲男：日本毒性学会の将来に望むもの
- 佐藤哲男：「学会の世代交代を考える」—私見—
- 佐藤哲男：若者たちへのメッセージ

2023年7月

佐藤哲男

千葉大学名誉教授

JSOT 名誉会員

SOT 名誉会員

元 IUTOX Vice President

日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第4報）

教育委員会の各種事業は下記の要領で実施する予定です。詳細は決まり次第、学会ホームページおよび毒性学ニュースでお知らせします。

なお、学会主催講習会は、トキシコロジーに関する知識（基礎知識）を幅広く学習する基礎教育講習会とトキシコロジストとしての知識をアップデート・ブラッシュアップする生涯教育講習会として位置付けすることを基本方針として開催いたします。

「第26回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験」

我が国の安全性試験の信頼性向上とトキシコロジーの進歩に寄与するため、質の高い専門家を認定するための試験です。受験資格の詳細については、毒性学ニュース及び学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程』をご覧ください。日本語・英語いずれかの受験になります。英語受験を希望する場合は、願書の英語受験希望欄にチェックを入れてください。

1. スケジュール

2023年11月5日（日）/予備日:11月12日（日）
自然災害等により11月5日に試験開催が困難であると判断した場合に、予備日に実施します。なお、試験開催を延期する場合には、2日前までに受験者へご連絡いたします。

2. 会場（予定）

昭和大学 旗の台キャンパス

3. 受験料

30,000円

4. 出願期間

2023年8月17日（木）～9月11日（月）
消印有効

「認定トキシコロジスト資格の更新」

2003年、2008年、2013年、2018年に認定トキシコロジストに認定された方となります。詳細は2023年4月頃にメールをお送りいたしますのでご確認ください。

毒性学ニュース、学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則』をご覧ください。

「認定トキシコロジスト試験問題作成依頼について」

資格更新のための試験問題作成の依頼は6月上旬、締め切りは8月中旬を予定しています。なお、可能な限り、2018年3月発刊の「第3版トキシコロジー」からの出題をお願いいたします。その他、詳細につきましては、2023年6月にご案内しております。

「第26回日本毒性学会基礎教育講習会」

本講習会はトキシコロジストの系統的な基礎教育あるいは再教育を目的としております。また、トキシコロジー全般にわたる理解を深めたうえで、日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験受験にお役立て下さい。講習は動画配信形式で2023年4月26日（火）～認定トキシコロジスト試験前までの期間で実施中です。受講修了者には受講証明書を発行します。

第51回日本毒性学会学術年会のご案内（第1報）

（年会ホームページ：<https://www.jsot2024.jp/>）

1. 会期

2024年7月3日（水）～5日（金）

2. 会場

福岡国際会議場

〒812-0032 福岡県福岡市博多区石城町2-1

TEL：092-262-4111

URL：<https://www.marinemesse.or.jp/congress/>

3. テーマ

A new decade for JSOT

Fusion of Other Science Fields and Strengthening of

Industry-Government-Academia Collaboration

4. 年会長

上原 孝

（岡山大学学術研究院医歯薬学域 薬効解析学）

5. 企画委員（敬称略・五十音順）

朝倉 省二（エーザイ（株））

安西 尚彦（千葉大学）

市原 学（東京理科大学）

伊藤 昭博（東京薬科大学）

内田 浩二（東京大学）

小椋 康光（千葉大学）

諫田 泰成（国立医薬品食品衛生研究所）

菅野 純（国立医薬品食品衛生研究所）

北嶋 聡（国立医薬品食品衛生研究所）

鯉淵 典之（群馬大学）

小柳 悟（九州大学）

佐藤 雅彦（愛知学院大学）

座間味義人（岡山大学病院）

渋谷 淳（東京農工大学）

鈴木 睦（協和キリン（株））

種村健太郎（東北大学）

津田 誠（九州大学）

奈良岡 準（アステラス製薬（株））

広瀬 明彦（（一財）化学物質評価研究機構）

黄 基旭（東北医科薬科大学）

藤村 成剛（国立水俣病総合研究センター）

松沢 厚（東北大学）

三隅 将吾（熊本大学）

宮脇 出（住友ファーマ（株））

森 和彦（第一三共（株））

山田 健一（九州大学）

吉岡 靖雄（大阪大学）

鰐淵 英機（大阪公立大学）

女性・若手企画委員（敬称略・五十音順）

安孫子ユミ（長崎大学）

有澤 琴子（東北大学）

岩井 美幸（国立環境研究所）

鷯木 隆光（国立水俣病総合研究センター）

大黒 亜美（広島大学）

加藤 百合（九州大学）

久保田 翔（岡山大学）

齋藤 文代（岡山理科大学）

田口 恵子（東京大学）

武田 一貴（北里大学）

服部奈緒子（星薬科大学）

濱野 裕章（岡山大学病院）

藤代 瞳（徳島文理大学）

宮崎 育子（岡山大学）

横田 理（国立医薬品食品衛生研究所）

6. 一般演題募集

一般演題（口演およびポスターでの発表）を2024年1月下旬から受け付ける予定です。

発表は会員のみとなりますので非会員の方は、日本毒性学会事務局にて入会の手続きをお願いします。
日本毒性学会ホームページ：<http://www.jsot.jp>

7. 優秀研究発表賞応募演題

2024年3月31日時点で35歳以下の方を対象として候補者を募集します。

8. 学生ポスター発表賞応募演題

学術年会（2024年7月3日（水））の時点で学生（大学院生を含む、ただし社会人大学院生は除く）のポスター発表（筆頭著者）の方を対象として候補者を募集します。

※7、8の賞への重複申請は不可とします。

9. 特別企画

年会長招待講演, 特別講演, 教育講演, シンポジウム, ワークショップ, キャリア形成支援プログラム, 市民公開セミナーを企画予定です。

10. ランチョンセミナーなどの募集

ランチョンセミナー, 広告掲載, 企業・関連団体展示を募集します。詳細については追ってご案内します。

11. 参加登録と演題申込

学術年会ホームページからのオンライン登録となります。

詳細についてはホームページをご覧ください。

年会ホームページ: <https://www.jsot2024.jp/>

12. 年会事務局

〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1番1号 グリーンファルマ研究所 401

九州大学大学院薬学研究院 生理学分野

事務局長: 西田 基宏

E-mail: secretariat@jsot2024.jp

2024年度日本毒性学会 学会賞 候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会学会賞を授与する。

候補者の資格：現に10年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の4月1日に満65歳以下である者。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けている者は対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員。

表彰：授賞者数は毎年1名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は当該年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：評議員1名の推薦を必要とする。推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Wordファイル）は日本毒性学会ホームページ（<http://www.jsot.jp/award/index.html>）からダウンロードして使用すること。

- ・推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（2,000字以内）
- ・学会賞の対象となる業績目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. または Fundam. Toxicol. Sci. に掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
- ・過去5年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2023年12月31日（日）

2024年度日本毒性学会 特別賞 候補者推薦要領

社会における毒性学の認知度の向上, 発展, 充実に大きく貢献した非会員の研究者に日本毒性学会特別賞を授与する。

候補者の資格: 日本毒性学会非学会員。

推薦者の資格: 日本毒性学会理事。

表彰: 授賞者数は毎年, 最大1名とし, 賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演: 受賞者(或いは代理人)は当該年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦: 理事1名の推薦を必要とする。推薦者は, 受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し, 日本毒性学会理事長宛(事務局)に電子メールで提出する。

- ・推薦書(候補者氏名, 授賞タイトルを所定の用紙に記入したもの)
- ・推薦理由(1,000字以内)
- ・特別賞の対象となる業績目録: 原著論文, 総説・著書, 主催, 発表等

推薦書類の送付先: jsotq@jsot.jp
(日本毒性学会事務局)

推薦締切: 2023年12月31日(日)

2024年度日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞） 候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会佐藤哲男賞（国際貢献賞）を授与する。

候補者の資格：現に10年以上継続して日本毒性学会の会員であるもの。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員1名。

表彰：授賞者数は毎年、最大1名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者（或いは代理人）は当該年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。

- ・推薦書（候補者氏名、授賞タイトルを所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（1,000字以内）
- ・佐藤哲男賞（国際貢献賞）の対象となる業績目録：原著論文、総説・著書、主催、発表等

推薦書類の送付先：jsothq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2023年12月31日（日）

2024年度日本毒性学会 学会貢献賞 候補者推薦要領

本会における学会活動の貢献に敬意を表し、日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に授与する。

候補者の資格：現に20年以上継続して日本毒性学会の会員であるもの。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員。

表彰：授賞者数は毎年1名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

候補者の推薦：評議員1名の推薦を必要とする。推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。

- ・推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴、本会における委員等の職歴等を所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（2,000字以内）
- ・学会貢献賞の対象となる業績目録：学会の活動に貢献した具体的な業績

推薦書類の送付先：jsothq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2023年12月31日（日）

2024年度日本毒性学会 奨励賞 候補者推薦要領

毒性学に関する研究において独創的な研究業績をあげつつあり、将来が期待される本会会員に日本毒性学会奨励賞を授与する。

候補者の資格：現に3年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の4月1日に満40歳以下である者。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けている者は対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員。

表彰：授賞者数は毎年3名以内とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は当該年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：評議員1名の推薦を必要とする。推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Wordファイル）は日本毒性学会ホームページ（<http://www.jsot.jp/award/encourage.html>）からダウンロードして使用すること。

- ・推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（2000字以内）
- ・奨励賞の対象となる業績の目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. または Fundam. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
- ・過去3年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2023年12月31日（日）

第50回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について

第50回日本毒性学会学術年会の要旨集を3,500円（税・送料込）で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を発送致します。

なお、学術年会（第32回以降）の要旨はオンライン（J-STAGE）でも閲覧が可能です。

振込先：口座番号	00150-9-426831
加入者名	一般社団法人日本毒性学会
要旨集価格	3,500円

通信欄記入事項：①住所 ②氏名（団体の場合は機関名・部署等） ③電話番号
④第50回学術年会要旨集希望の旨

※通信欄のご記入住所へ送付いたします。詳細なご記入をお願いいたします。

問い合わせ先：一般社団法人 日本毒性学会
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
パレスサイドビル
（株）毎日学術フォーラム
TEL：03-6267-4550 FAX：03-6267-4555
E-mail：jsothq@jsot.jp

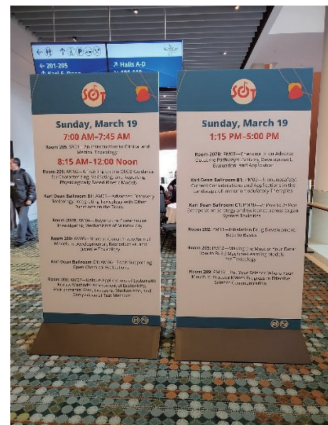
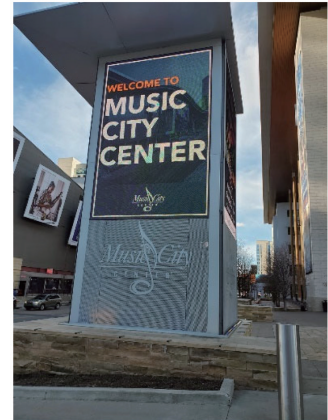
Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告① —Continuing Education Courses に参加して—

千葉大学大学院薬学研究院 竹村 晃典

このたび、私は日本毒性学会教育委員会が企画する SOT 派遣事業の一環として、第 62 回 SOT 学術年会（2023 年 3 月 19 日～23 日）で開催された教育コースのうち、指定セミナーとして「Beyond the Powerhouse: Investigating Mechanisms of Mitotoxicity」ならびに「Checking in on Adverse Outcome Pathways (AOPs): Evolving Development, Evaluation, and Application」を受講させて頂きました。今年の SOT はテネシー州ナッシュビル Nashville Music City Center で開催されました。ナッシュビルでは雪が降る程に冷え込んでおりましたが、音楽の街ということもあり街中は非常に賑わっておりました。それに加えて 2019 年以來の完全オンサイト開催もあいまって、多くの参加者がおり会場内は非常に活気がありました。

指定コースの Beyond the Powerhouse: Investigating Mechanisms of Mitotoxicity ではミトコンドリアの生体内での役割という基礎的な講義から始まり、様々な観点（鉄イオン、エピゲノム、炎症反応、腎毒性）からの毒性発現機序の講演がなされました。私自身もミトコンドリアに関する研究を行っておりますが、改めてミトコンドリア毒性と一言で表現しても様々な観点からとらえる必要があることを再認識いたしました。Checking in on Adverse Outcome Pathways (AOPs): Evolving Development, Evaluation, and Application のコースでは AOP 開発の流れについて様々な講師が説明し、本コースの中盤では実際に AOP-Wiki を使用しながらデモンストレーションする時間が組み込まれており、教育コースという名にふさわしいプログラムとなっております。完全オンサイトの開催ではありましたが、一部のシンポジウム（教育コースは対象外）では講演内容がそのまま保存され、専用アプリから再度視聴できる体制が整えられており聞き逃した箇所ならびに、スケジュールが被り聞くことができなかつたシンポジウムを視聴できるなど非常に充実した学会となっております。

最後に、私自身 SOT に参加するのは初めてでありましたが、このような貴重な機会をくださった日本毒性学会教育委員会および事務局の皆様へ深くお礼を申し上げます。



「 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告」② —国際的な IVIVE モデル研究について学ぶ—

日産化学株式会社 生物科学研究所 黒田 雄介

今回の 2023 SOT Annual Meeting は現地テネシー州ナッシュビル及びオンラインのハイブリッド形式で開催されました。昨年度までは新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、弊社でも海外出張は自粛傾向にありましたが、今回の学会派遣では現地参加が許可され、久しぶりの海外の学会参加は非常に楽しみでありました。

初日に開催された教育コースでは、午前中は「Nontraditional *In Vivo* Animal Models in Developmental, Reproductive, and Juvenile Toxicology」を受講し、午後には今回の派遣の指定セミナーである「*In Vitro* to *In Vivo* Extrapolation (IVIVE) Strategy and Guidance across Organ System Toxicities」を受講しました。米国 EPA は 2035 年までに哺乳類の動物実験をなくすことを目標とする方針を公表し、動物実験の代替を進む動きを示しており、欧州においても動物実験の回避が積極的に求められています。私の業務は主に農薬の開発研究であり、動物実験による安全性評価を専門としていましたが、代替法の重要性が高まる中で、最近では *in vitro* 評価に携わることが増え、技術向上や専門知識の学習に努めております。そのため、今回のセミナーにはとても興味を持ち、派遣へ応募した動機となりました。

2 日目以降の講演においても、次世代の安全性評価として IVIVE や Physiologically Based Pharmacokinetic (PBPK) モデルの研究にフォーカスしたシンポジウムやワークショップセッションが組み込まれており、ポスタータイトルにおいてもこれら単語を多く見かけました。今回の学会に参加できたことで、海外での動向を知ることができ、またこの分野に関して多く勉強することができました。知識不足でいまだに十分な理解ができていないとは言えませんが、講演内容をよく復習し、生涯教育講習会で学会へフィードバックしたいと思います。このような非常に貴重な機会を与えてくださった日本毒性学会教育委員会および事務局の皆様、並びにご支援いただいた先生方へは心より感謝申し上げます。

開催地のナッシュビル市はカントリーミュージックの中心地として知られ、会場の名称も「ミュージックシティセンター」、会場近くの通りはライブハウスが並び、観光客で賑わっていました。


COME MEET WITH US

SOT 2023

Society of Toxicology 62nd
Annual Meeting and ToxExpo

Where : Nashville Music City Center
Nashville, Tennessee
Booth 1421

Date : March 19-23, 2023



その他のお知らせ

フォーラム 2023 衛生薬学： 環境トキシコロジー

詳細は本会ホームページ <https://www.senkyo.co.jp/eiseiforum2023/>を参照下さい。

テーマ 広島から世界の人々の平和と健康を願って

会期 2023年9月12日(火), 13日(水)

会場 広島大学霞キャンパス凌雲棟
〒734-8553 広島県広島市南区霞1丁目2-3
JR広島駅より路線バス「まちのわループ」右回り
にて大学病院前下車徒歩約3分

実行委員長 古武 弥一郎 (広島大学大学院医系科学研究科)

プログラム

特別講演 田原栄俊 (広島大)
「核酸医薬による悪性胸膜中皮腫治療薬への挑戦」

教育講演 太田 茂 (和歌山県医大)
「薬学教育の現状と将来」

招待講演 (韓国より)

日韓シンポジウム

フォーラム I 「死因究明において薬学は何を期待されているのか —現状と展望—」

フォーラム II 「若手が切り拓くオルガネラバイオロジー&トキシコロジーの新視点」

フォーラム III 「脂溶性ビタミン研究の最前線」

懇親会

日時: 2023年9月12日(火)

会場: ANA クラウンプラザホテル広島

お問合せ

フォーラム 2023 事務局

広島大学大学院医系科学研究科 生体機能分子動態学研究室内 (大黒 亜美・宮良 政嗣)

〒734-8553 広島県広島市南区霞1-2-3

TEL: 082-257-5327 または 082-257-5326

E-mail: forum2023@hiroshima-u.ac.jp

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

日本毒性学会の定款および規程類については、最新版が学会ホームページ (http://www.jsot.jp/about/rule_list.html) に掲載されています。

2022年9月2日付で「研究倫理要綱」と「研究倫理問題に関する規程」が新たに制定されました。学会ホームページでご確認をお願いします。

一般社団法人日本毒性学会 定款

- 一般社団法人日本毒性学会 研究倫理要綱
- 一般社団法人日本毒性学会 研究倫理問題に関する規程
- 一般社団法人日本毒性学会 動物実験に関する指針
- 一般社団法人日本毒性学会 入会規程
- 一般社団法人日本毒性学会 賛助会員に関する規程
- 一般社団法人日本毒性学会 名誉会員・功労会員推薦規程
- 一般社団法人日本毒性学会 評議員選出規程
- 一般社団法人日本毒性学会 理事・監事選出規程
- 一般社団法人日本毒性学会 理事および監事候補の選出に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 常置委員会共通規程
- 一般社団法人日本毒性学会 部会に関する規程
- J. Toxicol. Sci. 投稿規程
- Fundam.Toxicol.Sci. 投稿規程
- 一般社団法人日本毒性学会 学会賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 特別賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞）選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 学会貢献賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 奨励賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 技術賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 田邊賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 ファイザー賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 日化協 LRI 賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程
- 一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの資格更新に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 名誉トキシコロジスト表彰に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 米国毒性学会教育コースへの学会員派遣に関する規程
- 一般社団法人日本毒性学会 個人情報の適正な管理・利用等に関する基本方針

高い再現性と信頼性で短期発がん性試験を実現したモデルマウス

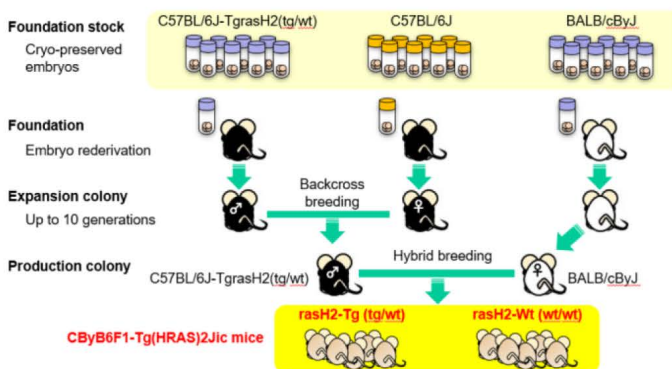
rasH2マウス



rasH2マウスは（公財）実験動物中央研究所（実中研）、東海大学医学部、国立がんセンター研究所（当時）との共同研究により開発されました（Saitoh A. et al., Oncogene. 1990）。その後1993年に実中研で発がん性評価試験の実用化を開始、1997年から2001年の5年間における日米欧の産官学50施設の国際共同研究 (ILSI/HESI)によってrasH2マウスの高いがん性評価の再現性、安定性が証明されました。当社では、2001年より本格的生産・供給をしております。2022年現在、遺伝子改変マウスによる短期発がん性試験のスタンダードモデルとして認知され、世界各国で利用頂いております。

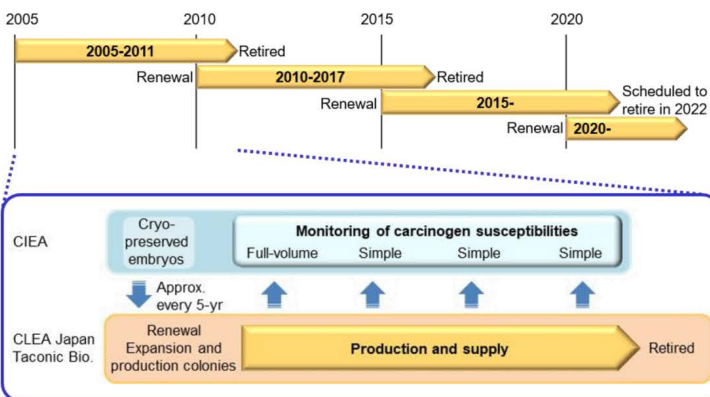
rasH2マウス: 生産システム

◆ rasH2マウスの“発がん感受性”の永続的・安定的な維持と安定供給のためにデザインされた生産システム



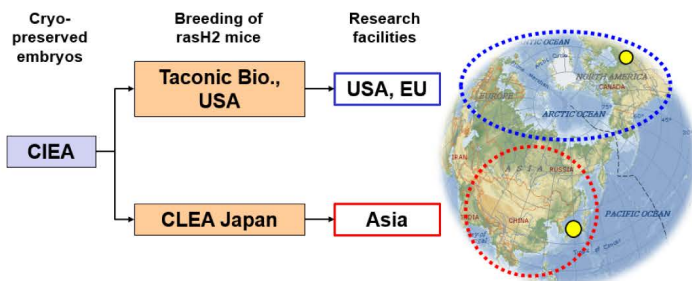
rasH2マウス: 品質管理システム

◆ rasH2マウスの“発がん感受性”を確認・保証するためにデザインされた品質管理システム

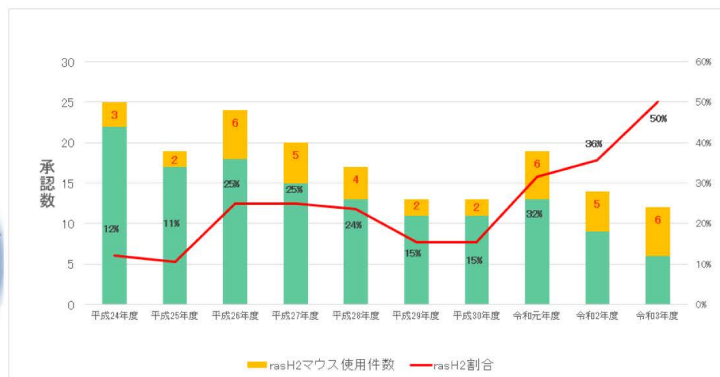


rasH2マウス: グローバルな安定供給体制

◆ 日本クレア、Taconic Biosciencesにて、定められ生産システムに基づきrasH2マウスを生産し、世界各国に供給しています



発がん性試験が実施された医薬品の承認状況



図：日本国内の過去10年間の発がん性試験推移 (PMDAのHPより独自調査)

受注センター
 東京 A D 部 〒153-8533 東京都目黒区東山 1-2-7
 大阪 A D 部 〒153-8533 東京都目黒区東山 1-2-7
 〒564-0053 大阪府吹田市江の木町 6-5
 仙台出張所 〒983-0014 宮城県仙台市宮城野区高砂1-30-24
 札幌出張所 〒063-0849 北海道札幌市西区八軒9条西10-4-28
 名古屋出張所 〒465-0093 愛知県名古屋市名東区一社3-79

TEL 03-5704-7123 FAX 03-3792-2368
 TEL 03-5704-7050 FAX 03-3792-2032
 TEL 06-4861-7101 FAX 06-4861-7108
 TEL 022-352-4417 FAX 022-352-4419
 TEL 011-631-2725 FAX 011-644-9209
 TEL 052-715-7580 FAX 052-715-7590



日本クレア株式会社

<http://www.CLEA-Japan.com>

Shin Nippon Biomedical Laboratories, Ltd.

創薬と医療技術の向上を支援し、
人類を苦痛から解放することを
絶対的な使命とします



(株)新日本科学は60年以上にわたる
豊富な経験と実績に裏付けされた確かな技術力により
質の高いサービスとニーズに合わせたソリューションを提供します



株式会社 新日本科学

<https://www.snbl.co.jp> mail: info@snbl.com



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



新薬の研究開発に 寄り添う技術力

実験には、様々なノウハウと
手技が求められます。

私たちは、「研究する心・想像する心」で
日々研鑽し、新しい技術の開発に
取り組んでいます。

明日の医療の発展を願って…

医薬品・医療機器・再生医療等製品の開発支援
各種GLP適合・AAALAC International 完全認証施設

・安全性試験・薬効試験・各種検査
・臨床試験・翻訳サービス・SENDサービス



株式会社新日本科学グループ
Ina Research Inc.
<https://www.ina-research.co.jp>

ケー・エー・シーでは医薬品の研究・開発にお使いいただける 細胞・ヒト由来試料を取扱っております

研究用試薬

HepaRG®・初代肝細胞



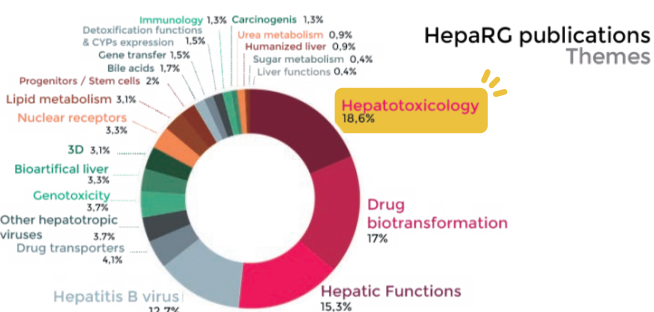
HepaRG®は、BIOPREDIC International社がライセンスを保有するヒト肝細胞セルラインです。肝細胞様形態を呈し、各種肝機能を保持・発現しており、ヒト初代肝細胞の代替ツールとして毒性試験および薬物動態などに広く利用されています。

➤ HepaRG®は様々な毒性評価に使用可能！

- ✓ ミトコンドリア毒性の評価
- ✓ 反応性代謝物による肝毒性評価
- ✓ 炭水化物および脂質代謝評価
- ✓ 胆汁うっ滞の評価

また、弊社ではBIOPREDIC International社をはじめとして、様々なメーカーで調製された品質の良い初代肝細胞（ヒト、ラット、イヌ、サル等）もご用意しております。

➤ HepaRG®を使用した論文が多数発表されている中、毒性試験で多く使用されています！



ECACC標準株細胞・核酸製品

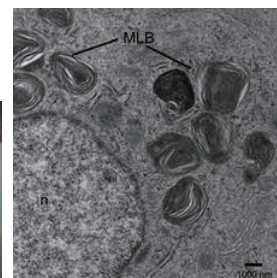
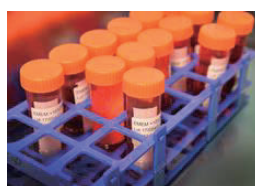


欧州最大の公的セルバンクであるECACCのセルリソース（標準株細胞・核酸製品）を、KAC独自のサービスとともに、**面倒な手続きなし***でお届けしています。

*：一部の細胞は、提供にあたり確認審査が必要になります。

➤ メリット！

- ✓ スタンダードな株細胞は国内に常時在庫
- ✓ プラス5,000円で、培養状態での提供可能
- ✓ 幾つかの起眠が難しい細胞はKACが代行
- ✓ KACによる迅速な技術サポート体制



肝毒性・腎毒性評価の受託試験



薬物トランスポーター研究のパイオニアであるSOLVO Biotechnology社にて、肝毒性・腎毒性評価試験などのサービスの提供も行っております。

➤ 試験例

- ✓ 代謝が遅い化合物の肝毒性評価（ヒト、サル、ラット、イヌ）
（HepatoPac®：初代肝細胞と間質細胞のマイクロパターン共培養にて評価）
- ✓ 早期腎障害バイオマーカーパネルを用いた腎毒性の可能性の評価 等



<https://www.saibou.jp/>



▶ これらの製品情報を細胞.jpでご調べ頂けます



株式会社 ケーエーシー

<https://www.kacnet.co.jp/>

お問い合わせ先

試薬事業部

TEL:06-6435-9747 FAX:06-6435-9748

e-mail: shiyaku-info@kacnet.co.jp

SLCの実験動物



マウス

●アウトブリード

Slc : ddY
Slc : ICR

●インブリード

DBA/1JmsSlc(コラーゲン薬物誘導関節炎)
BALB/cCrSlc
C57BL/6NcrSlc・C57BL/6JmsSlc
C3H/HeSlc
C3H/HeNslc
C3H/HeYokSlc
DBA/2CrSlc
NZW/NSlc
A/JmsSlc
AKR/NSlc
NC/NgaSlc(薬物・アレルギー誘導アトピー性皮膚炎)
CBA/NSlc
129×1/SvJmsSlc

●B10コンジェニック

C57BL/10SnSlc
B10.A/SgSnSlc・B10.BR/SgSnSlc
B10.D2/nSgSnSlc・B10.S/SgSlc

●ハイブリッド

B6D2F1/Slc(Slc:BDF1)
CB6F1/Slc(Slc:CBF1)
CD2F1/Slc(Slc:CDF1)
B6C3F1/Slc(Slc:B6C3F1)
※上記以外の系統については御相談ください。

●ヌードマウス(ミュータント系)

BALB/cSlc-*nu*(*Foxn1^{nu}*)
KSN/Slc(*Foxn1^{nu}*)

●疾患モデル

BXSB/MpJmsSlc-*Yaa*(自己免疫疾患)
C3H/HeJmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患-*Fas^{lpr}*)
C57BL/6JmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患-*Fas^{lpr}*)
C57BL/6Slc-*gld*(自己免疫疾患-*Fas^{gld}*)
MRL/MpJmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患-*Fas^{lpr}*)
NZB/NSlc(自己免疫疾患)
NZBWF1/Slc(自己免疫疾患)

WBB6F1/Ki(Ki^W/Ki^W)/Slc(肥満細胞欠損貧血-Ki^W/Ki^W)
NC/Nga(皮膚炎)

★ SAMR1/TaSlc(非胸腺リンパ腫・SAM系対照動物)
★ SAMP1/SkuSlc(老化アミロイド症)
★ SAMP6/TaSlc(老年性骨粗鬆症)
★ SAMP8/TaSlc(学習・記憶障害)
★ SAMP10/TaldrSlc(脳萎縮・うつ様行動)
★ SAMP10-*Sgltz*(SGT2変異による腎性糖尿・脳萎縮に伴う学習記憶障害・うつ様行動)
★ C57BL/6N Daruma(肥満モデル)
★ AKITA/Slc
C57BL/6HamSlc-*ob/ob*(肥満・2型糖尿病-*Lep^{ob}*)
★ HIGA/NscSlc(IgA腎症)
★ B6.KOR/StmSlc-*Apoe^{hi}*(アポE欠損高脂血症-*Apoe^{hi}*)
★ C.KOR/StmSlc-*Apoe^{hi}*(アポE欠損高脂血症-*Apoe^{hi}*)
★ C.KOR/StmSlc-*Traf3p2^{hi}*(アトピー性皮膚炎マウス-*Traf3p2^{hi}*)

ラット

●アウトブリード

Slc : SD
Slc : Wistar
Slc : Wistar/ST

●インブリード

F344/NSlc
BN/SsNSlc
DA/Slc(薬物誘導性関節炎)
LEW/SsNSlc(薬物誘導性関節炎)
ACI/NSlc(免疫)受注

●ヌードラット

Slc : Long-Evans-*rnu/rnu*

●疾患モデル

★ SHR/lzm(高血圧)
★ SHRSP/lzm(脳卒中)
★ WKY/lzm(SHR/lzmのコントロール)
★ SHRSP/Ezo(AD/HD)
★ SHRSP/Dmcr(NASHモデル【HFC飼料給餌】)
DIS/EisSlc(食塩感受性高血圧症)
DIR/EisSlc(食塩抵抗性)
Slc : Zucker-*fa/fa*(肥満-*Lep^{fa}*)
HWY/Slc(ヘアレスラット)

モルモット

●アウトブリード

Slc : Hartley

ウサギ

●アウトブリード

Slc : JW/CSK
Slc : NZW

ハムスター

●アウトブリード

Slc : Syrian

●疾患モデル

J2N-k(心筋症モデル)
J2N-n(J2N-kのコントロール)

スナネズミ

●インブリード

MON/Jms/GbsSlc

無菌動物(ラット)

●インブリードラット

F344/NSlc(GF)

●インブリードマウス(三協ラボサービス株)

※ Tsl : C57BL/6Ncr

遺伝子改変動物

■疾患モデル

★ APP^{osk}-Tg[C57BL/6-Tg(APP^{osk})](オリゴマ病理-老人斑形成なし)
★ APP^{wr}-Tg[C57BL/6-Tg(APP^{wr})](APP^{osk}の対照動物)
★ Tau609 Tg[C57BL/6-Tg(tau609)](タウ病理)
★ Tau784 Tg[C57BL/6-Tg(tau784)](タウ病理)
★ Tau264 Tg[C57BL/6-Tg(tau264)](Tau609, Tau784の対照動物)
—*アップテンマウス*—
★ OSK-KI[C57BL/6-Tg(OSK-KI)](マウスAβを産生)
(特許第6323876号)

■EGFPモデル

●マウス

C57BL/6-Tg(CAG-EGFP)(グリーンマウス)

●ヌードマウス

C57BL/6-8ALB/c-*nu/nu*-EGFP(EGFP全身発現ヌードマウス)

●ラット

SD-Tg(CAG-EGFP)(グリーンラット)

■gpt deltaモデル

●マウス

C57BL/6JmsSlc-Tg(*gpt delta*)

●ラット

F344/NSlc-Tg(*gpt delta*)

(株)星野試験動物飼育所

●アウトブリードマウス

☆ Hos : HR-1(ヘアレス)
☆ Hos : HRM-2(メラニン保有ヘアレス)

●疾患モデルマウス

☆ NSY/HOS(2型糖尿病)

●疾患モデルラット

☆ HOS : OLETF(2型糖尿病)
☆ HOS : 2FDM-*Lep^{ob}*(2型糖尿病)

(一財)動物繁殖研究所

●インブリードマウス

☆ IVCS(4日性周期)

●疾患モデルマウス

☆ C57B6/6JJar-*Lep^{ob}*/i*Lep^{ob}*(肥満2型糖尿病)
☆ TSOD(肥満2型糖尿病)

●アウトブリードラット

☆ Jar : Wistar-Imamichi

☆ Jar : Long-Evans

エンヴィーゴ(旧ハーランOEM生物動物)

●アウトブリードラット

RccHan[®] : WIST

●インブリードマウス

CBA/CaOlaHsd

●免疫不全モデルマウス

C.B-17/lcrHsd-*Prkdc^{scid}*

その他動物

●ミニプタ(Conventional)

☆(一財)日生研-NPO法人医用ミニプタ研究所

●マイクロミニピグ(Conventional, Clean)

☆国内繁殖生産(富士マイクロ(株))

●ペーパータ(SPF)SHIZUOKA EXPIG

☆静岡県畜産技術研究所中家畜センター

●ビーグル犬(Conventional)

☆国内繁殖生産((一財)動物繁殖研究所)

●フェレット(Conventional)

自家繁殖生産(中伊豆支所)

★印は受託生産動物、☆印は仕入販売動物です。



日本エス エル シー株式会社
〒431-1103 静岡県浜松市西区湖東町3371-8
TEL(053)486-3178(代) FAX(053)486-3156
<http://www.jslc.co.jp/>

営業専用
TEL

関東エリア (053)486-3155(代)
関西エリア (053)486-3157(代)
九州エリア (0942)41-1656(代)

一般社団法人 日本毒性学会

[名誉会員 (就任年度順)]

今道 友則	堀口 俊一	福田 英臣	池田 正之
加藤 隆一	井村 伸正	佐藤 哲男	渡辺 民朗
榎本 眞	小野寺 威	遠藤 仁	鎌滝 哲也
赤堀 文昭	土井 邦雄	長尾 拓	福島 昭治
津田 修治	吉田 武美	堀井 郁夫	大野 泰雄
上野 光一	山添 康	永沼 章	

[功労会員 (就任年度順)]

高仲 正	前川 昭彦	佐藤 温重	安田 峯生
菊池 康基	大沢 基保	今井 清	降矢 強
玄番 宗一	唐木 英明	仮家 公夫	暮部 勝
野村 護	牧 栄二	三森 国敏	佐神 文郎
遠山 千春	小野寺博志	杉本 哲朗	西田 信之
中村 和市	姫野誠一郎	眞鍋 淳	安仁屋洋子
横井 毅	久田 茂	青木 豊彦	山田 久陽

[賛助会員 (五十音順)]

●ダイヤモンド

(株)新日本科学

●プラチナ

第一三共(株)

Charles River

●ゴールド

旭化成ファーマ(株)

あすか製薬(株)

アステラス製薬(株)

(株)安評センター

EA ファーマ(株)

(株)イナリサーチ

エーザイ(株)

(株)LSIM 安全科学研究所

大塚製薬(株)

小野薬品工業(株)

花王(株)

一般財団法人化学物質評価研究機構

科研製薬(株)

杏林製薬(株)

協和キリン(株)

興和(株)

三栄源エフ・エフ・アイ(株)

サントリーホールディングス(株)

(株)三和化学研究所

塩野義製薬(株)

(株)資生堂

シミックファーマサイエンス(株)

住友ファーマ(株)

住友化学(株)

(一財)生物科学安全研究所

ゼリア新薬工業(株)

千寿製薬(株)

大正製薬(株)

大鵬薬品工業(株)

武田薬品工業(株)

田辺三菱製薬(株)

中外製薬(株)

帝人ファーマ(株)

トーアエイヨー(株)

東レ(株)

(一社)日本化学工業協会

日本香料工業会

日本新薬(株)

ファイザー(株)

富士フィルム(株)

扶桑薬品工業(株)

(株)ボゾリサーチセンター

Meiji Seika ファルマ(株)

持田製薬(株)

(株)薬物安全性試験センター

ライオン(株)

[役員] (2022 ~ 2023 年度)

理事長	務台 衛	安西 尚彦	上原 孝
理事	朝倉 省二	鍛冶 利幸	菅野 純
	小椋 康光	児玉 晃孝	佐藤 雅彦
	古武弥一郎	高橋 祐次	奈良岡 準
	渋谷 淳	黄 基旭	福島 民雄
	広瀬 明彦	宮脇 出	森 和彦
	宮内 慎		
	山本 千夏		
監事	天野 幸紀	三浦 伸彦	

[委員会] (2022 ~ 2023 年度)

● 理事長 ● 印: 常置委員会 ◆ 印: 小委員会

務台 衛

● 総務委員会	委員長	小椋 康光
◆ 連携小委員会	委員長	上原 孝
◆ 評議員選考小委員会	委員長	佐藤 雅彦
◆ 名誉会員および功労会員選考委員会	委員長	小椋 康光
◆ 指針値検討小委員会	委員長	広瀬 明彦
◆ 企画戦略小委員会	委員長	宮脇 出

● 財務委員会	委員長	森 和彦
---------	-----	------

● 編集委員会	委員長	鍛冶 利幸
	副委員長	古武弥一郎
	副委員長	藤原 泰之
◆ JTS 編集委員会	委員長	鍛冶 利幸
	副委員長	古武弥一郎
	副委員長	藤原 泰之

◆ FTS 編集委員会	委員長	永沼 章
◆ Executive Editor 小委員会	委員長	永沼 章
◆ 田邊賞選考小委員会	委員長	宮脇 出
◆ 毒性学ニュース機能強化 WG	WG 長	古武弥一郎

● 教育委員会	委員長	高橋 祐次
(小委員会・委員は10月末で交代)		
◆ 生涯教育小委員会	委員長	黄 基旭
◆ 基礎講習会小委員会	委員長	橋本 清弘
◆ 認定試験小委員会	委員長	福島 民雄
◆ トキシコロジー 4ed. 編集 WG	WG 長	鈴木 睦

● 学術広報委員会	委員長	児玉 晃孝
◆ 学会賞等選考小委員会	委員長	上野 光一
◆ 佐藤哲男賞・学会貢献賞選考小委員会	委員長	姫野誠一郎
◆ 特別賞等選考小委員会	委員長	上野 光一
◆ 技術賞選考小委員会	委員長	三島 雅之
◆ 日化協 LRI 賞選考小委員会	委員長	渋谷 淳
◆ 学術小委員会	委員長	吉成 浩一
◆ 広報小委員会・HP 担当	委員長	児玉 晃孝
	副委員長	宮内 慎
◆ トピックス小委員会	委員長	中西 剛

その他関連の委員会

○ IUTOX 担当	Executive Committee, Director	広瀬 明彦
○ ASIATOX 担当	ASIATOX Councilor	田口 恵子
○ SOT 担当		熊谷 嘉人
○ 日本学術会議担当	委員	石塚真由美

部会

○ 生体金属部会	部会長	佐藤 雅彦
○ 医薬品毒性機序部会	部会長	北嶋 聡
○ 付加体科学部会	部会長	上原 孝

[学術年会長]

第50回 (2023年) 北嶋 聡
 第51回 (2024年) 上原 孝
 第52回 (2025年) 黄 基旭
 第53回 (2026年) 宮脇 出

2023年8月1日 印刷

2023年8月1日 発行

発行人 務台 衛

編集人 鍛冶 利幸

発行所 一般社団法人日本毒性学会

学会事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1

パレスサイドビル

(株)毎日学術フォーラム

一般社団法人日本毒性学会事務局

TEL (03) 6267-4550 FAX (03) 6267-4555

E-mail : jsothq@jsot.jp

振替 00150-9-426831

<http://www.jsot.jp>

印刷所 株式会社 センキョウ

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2

TEL (022) 236-7161